

リサーチ TODAY

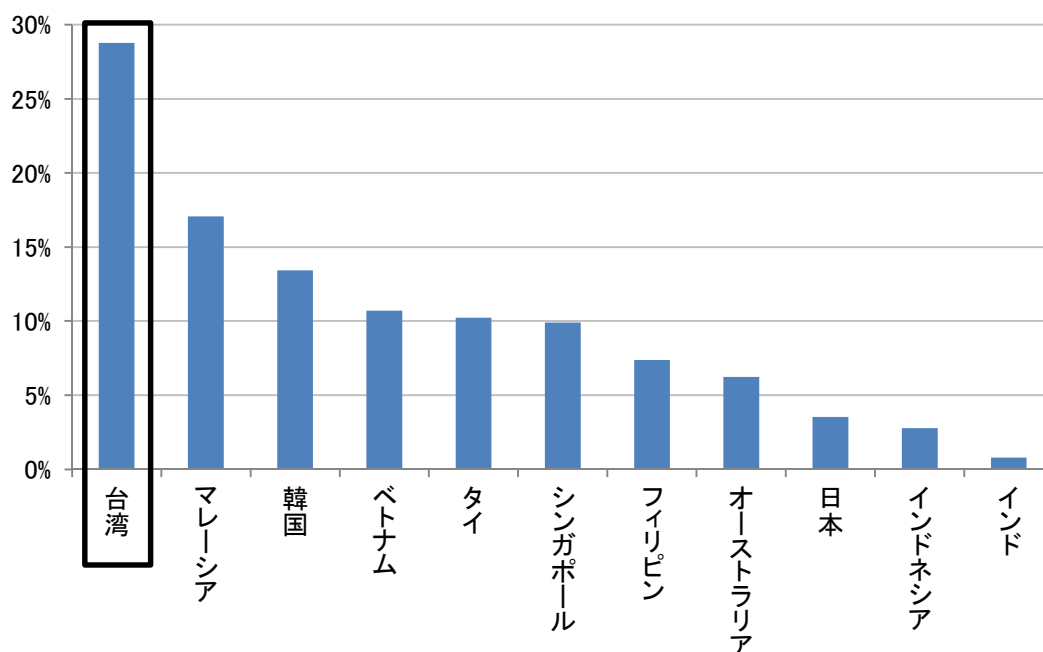
2016年 1月 29日

中国偏重からASEANへシフトする台湾

常務執行役員 チーフエコノミスト 高田 創

台湾は中国への経済依存度の高い国・地域の筆頭にあげられる。今月の台湾総統選挙で最大野党民進党の蔡英文主席が選出されたのは、中国への過度な依存への警戒感が強まったことによる。台湾は中国経済の先行き不透明感の高まりなどを背景に、過度な対中経済依存を是正しようとする動きを強めている。そこで台湾が改めて評価しているのが、近年中間層が拡大し台湾から地理的に近いASEANである。システム輸出やOEM・ODM工業団地投資、地場流通業やASEAN進出日本企業との連携も模索している。みずほ総合研究所は今月、台湾の対アジア投資に関するレポートを発表している¹。台湾の産業を代表するIT企業は中国で展開してきたOEM・ODMをASEANでも展開し、地場企業や日本企業へのOEM・ODMも進めたい考えだが、ASEANでのICT人材の確保、ベトナムへの投資偏重是正などが課題になっている。下記の図表は対中輸出依存度で、中国の減速は対中経済依存度が高い地域を揺るがしている。台湾は中国向けに中間財を輸出しているため、中国の工業生産の伸びの鈍化が台湾経済の重石となっている。台湾の実質GDP成長率は、当社の予想では、2014年の3.9%から2015年には0.9%程度まで落ち込む見込みである。

■ 図表：対中輸出依存度(2014年)

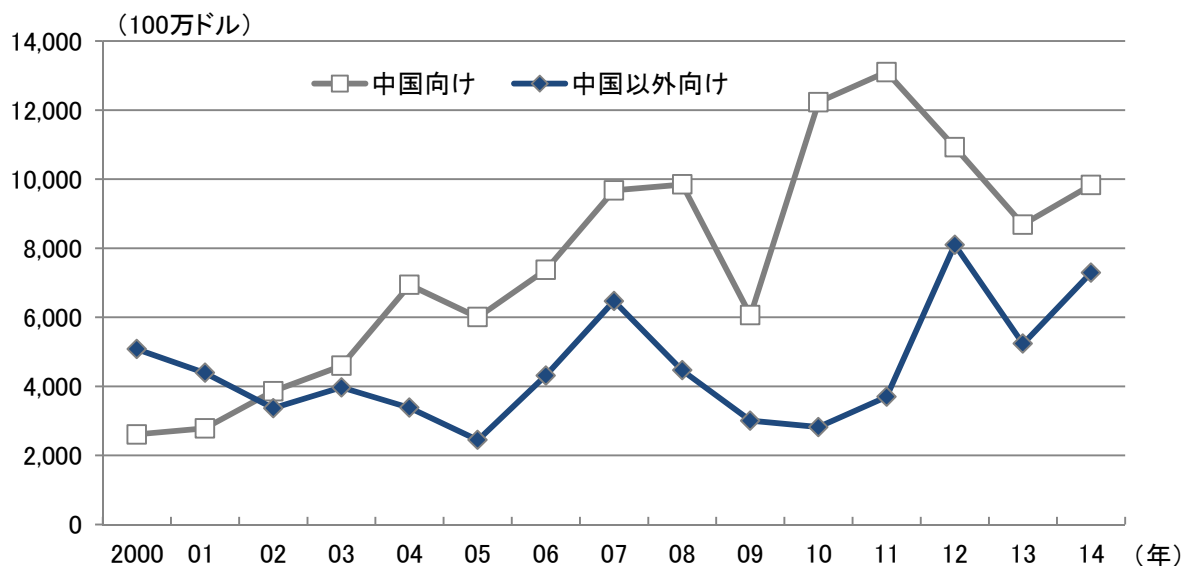


(注) 中国の各国・地域からの輸入/各国・地域の名目GDPで算出。

(資料) CEIC Data、IMF よりみずほ総合研究所作成

次の図表は台湾の対外直接投資の推移を示す。台湾の対外直接投資先は、2012年から抑制気味とはいえ中国向けが過半を占め、突出している。国民党の馬総統の8年間に中国への依存度が一層拡大する戦略がとられていた。今後の課題は、中国以外の拡大なかでもASEANのウェイトを増すことにある。

■図表:台湾の対外直接投資

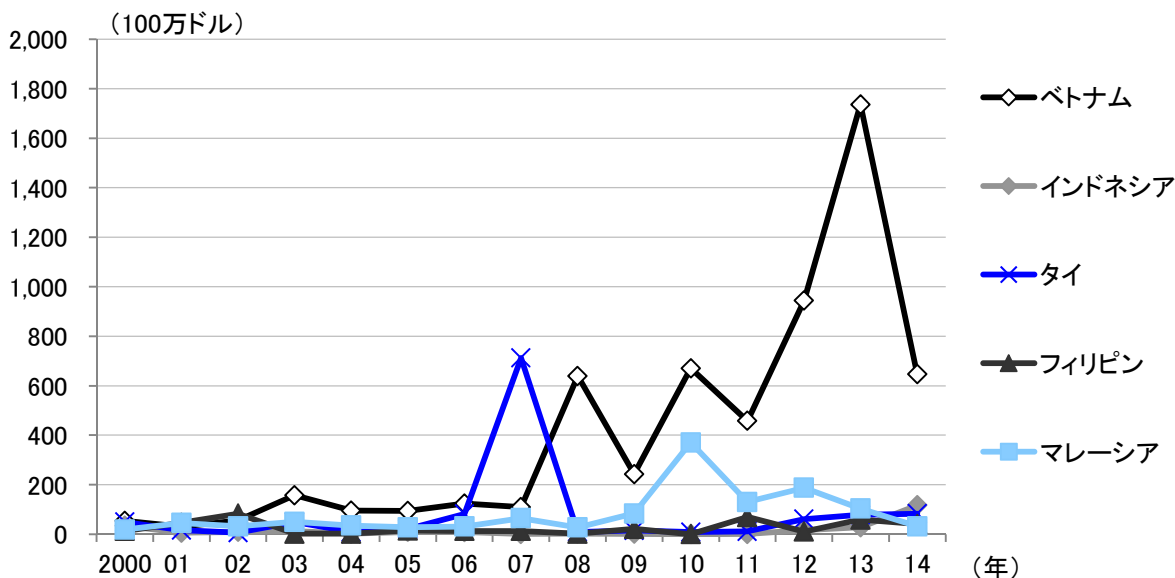


(注) 認可ベース。対中投資は、事業承諾分を含まず。

(資料) CEIC Data、台湾經濟部投資審議委員会よりみずほ総合研究所作成

次の図表は台湾の対ASEAN直接投資の推移を示すが、ベトナムが突出している。ベトナムは実質的に中国の分工場の側面もあるため、ベトナム偏重からの分散も課題となる。日本企業は台湾企業よりも一足早くASEAN重視に転じており、日台連携のフィールドがアジア広域に広がることが期待される。

■図表:台湾の対ASEAN直接投資



(資料) CEIC Data よりみずほ総合研究所作成

1 酒向浩二「ASEANシフトを進める台湾」(みずほ総合研究所『みずほインサイト』2016年1月14日)

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。